

履 修 要 覧

I. 授業について

II. カリキュラムについて

III. 諸資格について

IV. 教育職員免許状

V. 学籍および
各種証明書について

VI. 留学制度・語学セミナー

VII. 学則その他

目 次

ライフデザイン学部 2011年度 行事予定表
自分探しの学生生活

履修要覧	1
I. 授業について	11
1. 学期	12
2. セメスタ制度	12
3. 単位制	12
4. 科目	12
5. 時間割	13
6. 履修登録	13
7. 掲示	13
8. 休講	14
9. 欠席	14
10. 教員との連絡	15
11. 試験	15
12. レポート	16
13. 成績	16
14. 卒業再試験について	16
II. カリキュラムについて	19
各学科・専攻主任の挨拶	21
2011年度入学生用（黄色ページ）	
生活支援学科生活支援学専攻	
1. 教育課程表	29
2. 卒業要件	30
3. 学科専門科目の履修方法	30
4. 学部共通科目の履修方法	31
5. 一般教養的科目	32
6. その他の科目	32
7. 履修モデル及び就職先	33
生活支援学科子ども支援学専攻	
1. 教育課程表	34
2. 卒業要件	35
3. 学科専門科目の履修方法	35
4. 学部共通科目の履修方法	36
5. 一般教養的科目	37
6. その他の科目	37
生活支援学科実習スケジュール	38

健康スポーツ学科	
1. 教育課程表	39
2. 卒業要件	40
3. 学科専門科目の履修方法	40
4. 学部共通科目の履修方法	41
5. 一般教養的科目	42
6. その他の科目	42
7. 履修モデル及び就職先	43
人間環境デザイン学科	
1. 教育課程表	44
2. 卒業要件	45
3. 学科専門科目の履修方法	45
4. 3・4年次コース分けと各コースの特徴について	46
5. 学部共通科目の履修方法	46
6. 一般教養的科目	47
7. その他の科目	47
8. 履修モデル及び就職先	48
2010年度入学生用（緑色ページ）	
生活支援学科生活支援学専攻	
1. 教育課程表	51
2. 卒業要件	52
3. 学科専門科目の履修方法	52
4. 学部共通科目の履修方法	53
5. 一般教養的科目	54
6. その他の科目	54
7. 履修モデル及び就職先	55
生活支援学科子ども支援学専攻	
1. 教育課程表	56
2. 卒業要件	57
3. 学科専門科目の履修方法	57
4. 学部共通科目の履修方法	58
5. 一般教養的科目	59
6. その他の科目	59
生活支援学科実習スケジュール	60
健康スポーツ学科	
1. 教育課程表	61
2. 卒業要件	62
3. 学科専門科目の履修方法	62
4. 学部共通科目の履修方法	63
5. 一般教養的科目	64
6. その他の科目	64
7. 履修モデル及び就職先	65

人間環境デザイン学科

1. 教育課程表	66
2. 卒業要件	67
3. 学科専門科目の履修方法	67
4. 3・4年次コース分けと各コースの特徴について	68
5. 学部共通科目の履修方法	68
6. 一般教養的科目	69
7. その他の科目	69
8. 履修モデル及び就職先	70

2009年度入学生用（水色ページ）

生活支援学科生活支援学専攻

1. 教育課程表	73
2. 卒業要件	74
3. 学科専門科目の履修方法	74
4. 学部共通科目の履修方法	75
5. 一般教養的科目	76
6. その他の科目	76
7. 履修モデル及び就職先	77

生活支援学科子ども支援学専攻

1. 教育課程表	78
2. 卒業要件	79
3. 学科専門科目の履修方法	79
4. 学部共通科目の履修方法	80
5. 一般教養的科目	81
6. その他の科目	81

生活支援学科実習スケジュール

健康スポーツ学科

1. 教育課程表	83
2. 卒業要件	84
3. 学科専門科目の履修方法	84
4. 学部共通科目の履修方法	85
5. 一般教養的科目	86
6. その他の科目	86
7. 履修モデル及び就職先	87

人間環境デザイン学科

1. 教育課程表	88
2. 卒業要件	89
3. 学科専門科目の履修方法	89
4. 3・4年次コース分けと各コースの特徴について	90
5. 学部共通科目の履修方法	90
6. 一般教養的科目	91
7. その他の科目	91

8. 履修モデル及び就職先	92
---------------	----

2008年度以前入学生用（桃色ページ）

生活支援学科

1. 教育課程表	95
2. 卒業要件	96
3. 学科専門科目の履修方法	96
4. 学部共通科目の履修方法	97
5. 一般教養的科目	98
6. その他の科目	98
7. 特別コースについて	98
8. 履修モデル及び就職先	100
9. 生活支援学科学外実習スケジュール	101

健康スポーツ学科

1. 教育課程表	102
2. 卒業要件	103
3. 学科専門科目の履修方法	103
4. 学部共通科目の履修方法	104
5. 一般教養的科目	105
6. その他の科目	105
7. 履修モデル及び就職先	106

人間環境デザイン学科

1. 教育課程表	107
2. 卒業要件	108
3. 学科専門科目の履修方法	108
4. 3・4年次のコース分けと各コースの特徴について	109
5. 学部共通科目の履修方法	109
6. 一般教養的科目	110
7. その他の科目	110
8. 履修モデル及び就職先	111

Ⅲ. 諸資格について	113
------------	-----

ライフデザイン学部で取得できる資格

1. 社会福祉士	116
2. 精神保健福祉士	120
3. 介護福祉士	124
4. 保育士	132
5. A.D.I. (エアロビックダンスエクササイズインストラクター)	144
6. 健康運動指導士	146
7. 健康運動実践指導者	150
8. 障害者スポーツ指導者	154
9. レクリエーション・インストラクター	156
10. 第一種衛生管理者	158

11. 公認スポーツ指導者	160
12. 建築士（一級・二級・木造）	162
13. 人間環境デザイン学科で取得できる資格	165
14. 社会福祉主事	166
IV. 教育職員免許状	169
ライフデザイン学部で取得できる教育職員免許状	170
教育職員免許状の概要	172
教育職員免許状の必要科目（全入学年度生・全免許共通）	177
「免許法施行規則第66条の6に定める科目」（全免許共通）	178
子ども支援学	180
幼児教育・保育コース	184
生活支援学	186
生活支援	188
健康スポーツ	190
人間環境デザイン	210
V. 学籍および各種証明書について	219
1. 学籍	220
(1) 学籍	220
(2) 学生証	220
(3) 学籍番号	221
(4) 進級	222
(5) 4年原級	222
(6) 休学	222
(7) 退学	222
(8) 除籍	223
(9) 転部・転科	223
(10) 編入学	224
(11) 科目等履修生	224
2. 納付金に関する取扱	225
3. 各種証明書	228
4. 実習料	229
VI. 留学制度・語学セミナー	231
1. 交換留学制度	232
2. 認定留学制度	235
VII. 学則その他	239
1. 学則（学籍に関する事項の抜粋）	240
2. 不正行為	241
講義要項	243

I. 授業について

1. 学期

東洋大学では1年間を次の2学期に分けています。

春学期：4月1日から 9月30日まで

秋学期：10月1日から 3月31日まで

授業の開始日や年間スケジュール等は、表紙裏や学生ハンドブックの行事予定表で確認してください。

2. セメスタ制度

ライフデザイン学部はセメスタ制度を採用しています。セメスタ制とは、1年を2つの学期（セメスタ）に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて卒業するシステムです。科目はすべて学期毎で完結しており、成績評価も年に2回されるため、集中して学ぶことができ、幅の広い科目選択が可能になります。

1 学年	第1セメスタ
	第2セメスタ
2 学年	第3セメスタ
	第4セメスタ
3 学年	第5セメスタ
	第6セメスタ
4 学年	第7セメスタ
	第8セメスタ
卒業	

3. 単位制

すべての科目には、それぞれ単位数が定められています（「Ⅱ. カリキュラムについて」を参照）。単位制とは、科目ごとに定められた時間数の学修を経て、試験等に合格することによって、所定の単位を与えられる制度です。科目を学習することを「科目を履修する」といい、単位を与えられることを「単位を修得する」といいます。

単位数の計算方法は、原則として下記のとおりとし、大学での1時限の授業は、2時間として計算されています。

種別	1単位の計算方法
講義・演習科目	15～30時間の授業をもって1単位とする。
実習・実験・実技科目	30～45時間の授業をもって1単位とする。

卒業するためには、本学に学生として4年間（8セメスタ）以上在学し、学科により定められた科目の単位を124単位以上修得しなければなりません。

4. 科目

学期の開始時には、各自で自分がどの科目を履修するかを決めなければなりません。「Ⅱ. カリキュラムについて」で、学科教育課程表や卒業条件、および「講義要項」（授業科目の内容）、「授業時間割表」（授業科目の開講曜日時限）を確認したうえで、科目を決めてください。履修する科目を決める方法は下記のとおりです。

- (1)科目には、必修科目（その科目の単位を修得しなければ卒業できない科目）と、選択科目（いくつかの科目の中から選択できる科目）という区分があります。履修にあたっては必修科目を最優先してください。
- (2)科目には、配当学年（どの学年で履修すべき科目か）が決まっています。配当学年が自分の学年よりも上の科目を履修することはできません（ただし配当学年が自分の学年よりも下の科目は履修することができます）。
- (3)その他学科・科目ごとの注意事項についてはP19「Ⅱ. カリキュラムについて」を参照してください。
- (4)資格取得を希望する学生は、「Ⅲ. 諸資格について」および「Ⅳ. 教育職員免許状」で、資格取得のための条件を確認してください。卒業のための必修科目の他に、資格毎に資格取得のための必修

科目や、必要単位数が定められています。又、学外実習を要する資格は実習参加条件が設けられているものもありますので、十分注意してください。

5. 時間割

授業は平日の月曜日から土曜日まで行われます。授業時間は次のとおりです。

各授業は原則週に1回で、春学期・秋学期各15週行い、定められた曜日時限に行われます。(年度はじめに配布される「授業時間割表」を参照してください。)

時限	時間
1時限	9:00~10:30
2時限	10:40~12:10
昼休み	12:10~13:00
3時限	13:00~14:30
4時限	14:40~16:10
5時限	16:20~17:50

6. 履修登録

授業に出席し、単位を修得するためには、自分が履修する授業科目を大学に登録する必要があります。これを履修登録といい、春学期の開始時には春学期の開講科目を、秋学期の開始時には秋学期の開講科目を登録します。履修登録していない授業科目は、授業に出席することも、試験を受けることもできず、単位も修得できません。

履修登録にあたっては、次の点に注意してください。

- (1)1セメスタで登録できるのは、原則24単位までとなります。
- (2)同一科目を2つ以上登録する(例えば同一科目の1コースと2コースの両方を履修する)ことはできません。
- (3)すでに一度単位を修得した科目を再度登録することはできません。
- (4)登録期間を過ぎると、履修する科目の変更・追加・削除は一切行えません。
また、新入生の場合、この履修登録を行わないと、就学の意味がないとみなされ、除籍(P241参照)となる場合もあるので注意してください。
- (5)履修登録完了時には必ず「確定」ボタンをクリックの上終了し、履修登録確認表を出力してください。
履修登録確認表は履修相談時等に提出を求められる場合があります。

なお履修登録の方法については、学期はじめに配布する「履修登録のしおり」を参照してください。

7. 掲示

大学からの通知・連絡などはすべて学内の掲示板およびインターネット「東洋大学 Web 情報システム」で通知します。登校したら、必ず毎日確認してください。

(1)学内掲示板

研究指導棟前	中央掲示板	: 学生呼出、履修、試験、レポート、資格、成績、学籍、納付金、奨学金、学生生活、図書館、キャリア形成支援・就職活動支援、イベント情報、学生相談室、医務室
講義棟1階	休講掲示板	: 授業の休講・補講、教室変更

(2)インターネットでの通知

東洋大学 Web 情報システム (<http://euniup.toyo.ac.jp/>)

8. 休講

教員のやむをえない理由により、授業を休講にすることがあります。授業の休講については、大学内の掲示板及び東洋大学 Web 情報システムで通知します。また、掲示板や Web 情報システムに通知されていないにも関わらず、授業開始後30分を経過しても担当教員が不在の際には、授業は休講となります。休講の場合には、原則として補講が行われます。補講については別途、休講掲示板および Web 情報システムで通知します。

なお、交通機関がストップしている場合等の授業の取り扱いについては下記のとおりとします。

(1)交通機関の運行停止に伴う休講について

交通機関がストライキまたは災害等により運行停止になった場合の授業の取扱いは、以下により措置します。

①休講の対象路線

JR 武蔵野線、東武東上線のいずれかが運行を停止した場合。

授業中に運行停止になった場合、当該授業並びにそれ以降の授業の継続・中止は大学の指示に従ってください。

②休講の対象時間

午前7時の時点で運行が停止している場合 午前中休講

午前10時の時点で運行が停止している場合 全日休講

(2)気象警報・地震情報等に伴う休講について

①台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および災害等により交通機関が運行停止している場合の授業の取扱いについて

台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一時的な運行停止を除く）の授業の取扱いについては、本学ホームページ (<http://www.toyo.ac.jp/>)・東洋大学 Web 情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。ホームページはアクセスが集中し繋がりにくい場合がありますので、Web 情報システムも利用してください。

なお、授業中に交通機関の混乱等が予想される場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

②大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについて

大規模な地震の発生が予想され、警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについても、本学のホームページ・東洋大学 Web 情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。授業中に警戒宣言が発令された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとします。

9. 欠席

下記のようなやむを得ない理由で授業を欠席した場合には、朝霞事務課教務担当窓口にて手続きを行ってください。

(1)病気、怪我、交通機関の遅れ、忌引き等による欠席

届け出る際には、証拠となる書類（医師の診断書、遅延証明書、通知等）が必要となります。

(2)正課の学外実習による欠席

対象の実習：教育実習、養護実習、介護福祉実習、保育実習、社会福祉援助技術現場実習、精神保健福祉援助技術実習、看護学実習、介護等体験など

欠席の際は、「学外実習に伴う欠席届」に必要事項を記入し、朝霞事務課教務担当窓口にて確認印を受けた後、欠席届を担当教員に提出してください（学外実習の実施日以前の提出が必要となります）。

それ以外の欠席については、科目担当教員へ直接連絡をしてください。

なお、病気・家庭の事情・留学等の理由で3ヶ月以上本学に修学できない場合は、教授会の許可を得て休学（P241参照）することができます。

10. 教員との連絡

教員への連絡、授業内容への質問等がある場合には、

(1)専任教員については、「講義要項」の「教員プロフィール」に記載されているオフィスアワーや連絡先を利用してください。

(2)他キャンパスの教員もしくは非常勤講師については、授業終了後20分後までに講師控室にて直接連絡をするか、「東洋大学 Web 情報システム」の「教員プロフィール」に記載されている連絡先を利用してください。

朝霞事務課窓口や講師控室では、教員の連絡先を教えることはできません。

11. 試験

学期初めに登録した授業科目の単位を修得するためには、授業回数の3分の2以上に出席し、所定の試験に合格しなければなりません。試験には、平常試験と学期末試験があります。また、科目によっては、試験を行わずにレポート又は平常点で評価する場合があります。

(1)平常試験

平常の授業期間に、担当教員の判断によって、随時行われます。

(2)学期末試験

授業期間終了後、春学期試験は7月～8月に、秋学期試験は1月～2月に、一定の時期を定めて、試験2～3週間前に別途配布される試験時間割に沿って実施されます。実施期間については、表紙裏の行事予定や学生生活ハンドブックの行事予定表で確認してください。

なお、学期末試験時の注意事項については下記を参照してください。

- ①試験時間は90分間とします。試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。
- ②受験の際、学生証は写真を表にして机の上に提示してください。万一、学生証を忘れたときは、事前に朝霞事務課教務担当窓口で「仮学生証」の交付を受けてください。
- ③答案用紙には黒のペンまたはボールペンで学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記入してください。学籍番号は10桁を記入してください。なお、学籍番号・氏名のない答案は無効となります。
- ④試験会場への持込が許可されている物の学生間での貸し借りは不正行為とみなします。
- ⑤試験会場には、携帯電話・PHS・電子機器（電子図書・ポケットコンピュータ等）の持ち込みを禁止します。
- ⑥試験に際し、許可されて使用できる六法全書は、次の指定されたものに限りです。
岩波書店「基本六法」・「セレクト六法」 有斐閣「六法全書」・「小六法」・「ポケット六法」
法曹会「司法試験用六法」 三省堂「新六法」・「デイリー六法」 第一法規「新司法試験用六法」
- ⑦天災・病気・その他やむを得ないと認められる理由によって定期試験を受けることができなかった場合は、すみやかに定期試験本部（講師控室）へ証拠となる書類（医師の診断書、遅延証明書、

通知等)を添えて届け出て、具体的な指示を受けてください。

12. レポート

レポートの提出については、内容・日時・提出先は、授業時及び掲示板で確認してください。朝霞事務課窓口や講師控室では、レポートの受取や、レポートの送付先・教員の連絡先を教えることはしません。

13. 成績

成績発表は、年2回行われます。春学期の成績は9月～10月に、秋学期の成績は2月～3月に発表します。詳細な日程は、後日掲示板等で確認してください。

成績の表示は次のとおりです。

点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～40	39以下	評価対象外
成績表示	S	A	B	C	D	E	*
合否	合格				不合格		

※評価対象外とは、授業期間を通じ出席不良、または試験の不受験、レポート未提出のために成績評価の判断ができないもの。

〈成績調査〉

成績発表時に、各自の成績について不明な点がある場合については、朝霞事務課教務担当窓口を通して成績の調査申請を行うことができます。その際には、定められた期間内に、配付された成績表を持参してください。

14. 卒業再試験について

4年次生で、卒業を希望する者のうち、卒業当該学期に不足している科目数が3科目6単位以内の学生を対象として、卒業再試験を実施します。

(1)卒業再試験の対象となる科目は、以下の全てに該当する科目です。

- ①卒業当該学期に履修登録を行っている科目
- ②単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目

(2)以下の科目は卒業再試験対象科目から除外します。

- ①演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- ②卒業論文、卒業研究、卒業制作
- ③教職科目の内、教職に関する科目
- ④不正行為等により無効となった科目
- ⑤通常の評価において「E」「*（評価不能）」と判定された科目
- ⑥科目の性質上、担当教員と開講責任学部の学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示します。

(3)卒業再試験は、卒業当該学期で発表される単位充足者発表時に、定められた時間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとします。

- ①指定期間内に卒業再試験手続きを行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅します。
- ②受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができます。
- ③代理人による手続きは認めません。

(4)卒業再試験受験料は1科目5,000円です。

(5)卒業再試験の成績評価は以下の通りとします。

- ①成績評価基準は、各科目で定める評価方法を基に、原則として東洋大学成績評価基準に則って行います。
- ②卒業再試験の結果、合格した者の成績評価の上限は「C」評価とします。

Ⅱ. カリキュラムについて

2011年度入学生	：黄色ページ
2010年度入学生	：緑色ページ
2009年度入学生	：水色ページ
2008年度以前入学生	：桃色ページ

※入学年度ごとにカリキュラムが異なりますので、注意してください。

生活支援学科

学科主任の挨拶

現在、わたしたちの暮らしている21世紀の日本では、核家族化、少子化、超高齢化といったことが大きな課題になっています。特に、少子化と超高齢化は、これまでの日本でも、世界でも、ほとんど体験したことがない大きな社会変化を生み出します。

核家族化と少子化によって、子育て、子育てをめぐる環境は大きく変わり、子育て不安、児童虐待、犯罪の低年齢化など、社会の注目を集めている問題は数多くあります。これらの問題は、家族や地域環境、子どもの心理・精神保健、子どもの教育環境、児童福祉を、トータルに理解しないと見えにくい問題になっています。

超高齢化は、出生率の低下と平均寿命の伸びが続いている日本で、高齢人口がきわめて急速に増加している状況を言います。介護不安、老人虐待、寝たきり高齢者の増加、認知症のある高齢者の増加、社会保障制度への不安など、社会の注目を集めている問題は数々あります。これらの問題も同様に、家族や地域環境、高齢者の心理・精神保健、高齢者福祉、福祉用具や福祉機器などを、トータルに理解しないと把握しにくい問題です。

これらの問題に取り組むには、これまで以上に、社会福祉学、社会学、教育学、心理学、精神保健、介護技術、などの幅広い知識と専門性に裏付けられた保育、幼児教育、介護福祉に関わる人材が必要です。これまで、どちらかと言えば、短期大学や専門学校を中心に人材養成が行われてきた保育、幼児教育、介護福祉ですが、4年制の総合大学として、これらの人材養成に取り組むためには、専門科目、専門技術の科目に加えて、語学や教養的な科目の学習も専門職としての基盤づくりにとっても重要です。

こうした教育目標をさらに確実に実現するため、平成21年度から生活支援学科は、主として介護福祉、障害者福祉、地域福祉、医療福祉などの専門職を養成する生活支援学専攻と、保育や幼児教育などの専門職を養成する子ども支援学専攻との2専攻体制となりました。前者では介護福祉士、精神保健福祉士などの受験資格や高等学校一種免許状（福祉）、後者では保育士の国家資格や幼稚園一種免許状を取得できます。また、いずれの専攻においても社会福祉学を深く学び、社会福祉士の受験資格を取得することができます。

このように、生活支援学科においては、これまでの東洋大学の伝統である幅広い教養科目を学びながら、理論的な専門知識の習得を目指す講義と、具体的な技術習得を目指して1年次から始まる現場実習などを並行して進めることにより、従来の4年制大学以上に高い理論的能力と実践的能力を兼ね備えた専門職の養成を目指します。

学部開設後6年が経過し、生活支援学科が新しい専攻体制をとった1昨年度以降、私達の取り組みの真価があらためて問われています。生活支援学科の教職員は、それぞれの専門領域において、ますます深刻化している諸問題に真っ向から取り組んでいくことで、社会の期待に応え、その重責を全うして行こうと考えています。生活支援学科の学生諸君も、社会人としての自己の役割を自覚し、熱意をもって専門的知識や技能の習得に努めるよう期待します。

生活支援学科 生活支援学専攻

1. 専攻主任の挨拶



生活支援学専攻主任

野村 豊子

人間の尊厳を多様な領域や方法の中心に据えることから生活支援学専攻の学びは始まります。社会福祉を取り巻く激変の時代に生きる対人援助職には何が求められているのか、そのことを四年間の学びを通して理解し、自分のものとしていただけるよう生活支援学専攻では改革を重ねてきました。

高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉という様々な分野で大きな改革が矢継ぎ早に行われ、現在もそれらの改正が緊急の課題となっています。さらに、社会福祉士及び介護福祉士法の改正が行われ、養成校のカリキュラムや国家試験の科目も大幅に変わりました。このような時代の要請をふまえて、従来の学際的な人材養成を重視しながら、他方、専門職養成をより深めるために、2009年度より生活支援学科内に生活支援学専攻を設置しました。

生活支援学専攻では、新しい時代にふさわしい総合的な福祉専門職の養成の目的のために社会福祉士養成を基盤として、介護福祉士コース（40名定員制）や、精神保健福祉士養成のための学習コースを設定し、これらの専門職養成に適した、従来より一層専門教育を掘り下げることが可能な教育課程を提供しています。

生活支援学専攻のカリキュラムの特色としては、従来の一般教養科目に加えて対人援助の専門職に必要な基礎的な素養を早い時期から身につけるために、一年次から「社会福祉の基礎」「専門職論」「実習の基礎」を必修にしています。その上で、社会福祉士養成コースでは「社会福祉援助技術論」と演習・実習を重視し、これに加えて、医療福祉分野で活躍できる人材養成のための医療福祉に関する諸科目の開講を始めています。介護福祉士養成コースでは、介護福祉士養成校として要求される科目だけでなく、社会福祉関連科目を基盤に置いた上での専門的な学習を重視します。同様に、精神保健福祉士養成コースでは、精神保健福祉士養成校として要求される科目だけでなく、社会福祉関係科目を基盤に置いた上での専門的な学習に力点を置いています。

また、社会福祉士や介護福祉士などの資格志向の学生の他に、民間企業や行政機関で幅広く活躍したい学生向けに、外国語やコミュニケーション能力を重視した総合的な福祉に関わる人材養成も重視します。

生活支援学科 子ども支援学専攻

1. 専攻主任の挨拶



子ども支援学専攻主任
角藤 智津子

2011年現在、日本では、核家族化、少子化、超高齢化が大きな問題となっています。少子化とは、人口を維持することができる人数よりも少ない人数の子どもしか生まれていない状況が、長い期間にわたっていることです。人口を維持するためには合計特殊出生率が2.1以上である必要がありますが、日本では2009年には1.37でした。少子化が進むことで、人口が減少するとともに、若い労働力が減り、消費が縮小されることによる経済への影響が考えられます。また高齢化が進むことで社会保障費が増加して、国民の負担が増大することも懸念されています。

国は少子化対策として、子どもや子育てをする保護者を支援するために、さまざまな試みを行っています。しかしながら、未だに出生率は大きくは上がってはいません。一方では、子どもをめぐる悲惨な事件が多く報道され、今日ではさらに貧困の問題なども顕著になり、子育てをする親の悩みや不安、苦労の大きさがうかがわれます。そうした中で生まれ、育つ子どもたちの抱える問題はますます深刻になってきています。

2005年4月に誕生したライフデザイン学部は、今年で7年目を迎えました。2009年度からは、従来の学際的な人材養成を維持しながら、専門職養成をより深めるために生活支援学科子ども支援学専攻が生まれました。少子化対策は、子ども支援学専攻にとっても、大きな課題です。子どもを安心して産み育てること、そのためには何が必要であるかということ、研究し提案していかなければなりません。新専攻とともにカリキュラムも新しくなり、地域の親子を支援するプログラムを授業に取り入れることも行いました。子どもや保護者をより理解し、支援できるような専門科目が増えました。

保育士養成のカリキュラムは、保育士の更なる専門性の向上を目指して、2011年度から新しくなります。それに伴い、幼稚園教諭養成のカリキュラムにも変化が見られます。今後も、児童福祉、幼児教育、保育の新しい考え方、新たな制度に合わせて、カリキュラムは大きく変化していくことが予想されます。東洋大学は、どんな変化にも柔軟に対応できる態勢をとり、最高の教育を目指します。

保育士資格、幼稚園教諭一種免許状などの資格は、指定された科目の履修、所定の手続きにより取得することができます。資格取得のためには、子ども支援学専攻のカリキュラムの特色ともなっている保育実習、幼稚園教育実習を行わねばなりません。大学外の保育所、幼稚園、児童福祉施設等において、実践を通して子どもについて考え、子どもの育ちを支援するとはどういうことであるのかを学びます。東洋大学を卒業する際には、自分自身の教育観・保育観を持ち、社会の変化や職場の状況に対応できるようにになっていただきたいです。

ライフデザイン学部は乳児から高齢者まで、どんな状況にある人々も、その人が尊重され、可能な限りよりよい生活を実現する方法を追求していく学部です。具体的な係わりはもちろんのこと、まちづくりから施策まで含めて、社会の在り方と一人ひとりのありようをつなげて良くしていこうとする試みです。生活支援学科子ども支援学専攻は、ライフデザイン学部の中にあるという特色を生かして、大きな視点から、子どもと子どもを取り巻く人々、事柄を考えることができます。学生の中には、生活支援学専攻の高齢者や障がい者に関する科目を履修する者がいます。また、健康スポーツ学科や人間環境デザイン学科の科目を履修する学生もいます。

2009年3月に卒業した生活支援学科の幼児教育・保育コース(2008年度入学生までの呼び名です。)の初めての卒業生たちは、保育所、幼稚園、認定こども園、社会福祉施設、企業等で働いています。東洋大学出身の日本の児童福祉・幼児教育を支える人々が、少しずつ増えています。

私たち教員は、保育、幼児教育、社会福祉についての資格が、単なる資格としてではなく、子どもについて、人間や社会について学ぶことを通じ、一人ひとりの学生の中に位置付き、社会に生かされていくことを願っています。そして、みなさんの勉学のために、力を尽くします。

健康スポーツ学科

1. 学科主任の挨拶



健康スポーツ学科主任
大迫 正文

近年、我が国では健康の維持増進に関心が高まり、その軸をなす栄養や休養については注意が払われ、改善がなされてきました。しかし、もうひとつの軸をなす運動については、効果が理解されていても、とかくそれを習慣化するまでには至っていません。

今日、健康は生きる目的ではなく、日々の生活の資源としてみなされています。年齢や障害の有無に関わらず、健康の維持増進を図ることは身体的な能力を高めると同時に、社会的・個人的資源を確保するという意味においても意義あることです。運動は健常者の一層の健康増進を図り、加齢に伴う疾病予防に効果を発揮することはもちろんのこと、高齢者や障害者においてはADL（日常生活動作能力）の維持や回復を促します。このことから健康づくりのための身体活動を日常化することが理想とされています。また、成人以外にも、最近の子どもたちには体力低下や骨折率の増加などが指摘されており、運動は子どものそのような現状の回復にも効果があると期待されています。

ひとくちに運動と言っても、競技スポーツや、ヨガまたは個人で行うジョギングのように様々なものがありますが、果たして健康増進につながる運動とはどのようなものでしょうか。このことに関しては、興味を持ち続けられる運動内容（質的側面）や、各人の身体活動能力に合わせた強度、時間および頻度（量的側面）が、科学的根拠をもとに的確に判断される必要があります。そのようなことを含め、個々人に適した運動を介した身体活動能力の確保ならびに健康の維持増進を自ら実践でき、また、それを指導できる人材を育成することが当健康スポーツ学科の主たる教育目標です。

しかし、卒業生の進路状況をみますと、必ずしも健康、運動、スポーツというキーワードで表される分野に進んでいるとは限らず、むしろ半数近くの方たちはそれ以外の分野で活躍しています。このことを加味しますと、当学科の教育では健康増進を主題としておりますが、それはあくまでも題材であり、その大きなテーマについて多角的な視点で捉え、判断し、実践できる人材が育成されているとも理解されます。そのため、当学科のカリキュラムには、今日の多様化した健康問題にも対処できるように、健康増進のための理論的根拠や実践的な方法論に関する多くの科目が置かれ、それには自然科学系や人文科学系のものが含まれています。つまり、健康スポーツ学は複合領域の学問で、そこでは広い視野と的確な判断力、そして優れた行動力を養う教育がなされています。

新入生の諸君は、まず、このような学科の目指すところを理解し、受け身一方の受講姿勢ではなく、積極的な知識習得に努めて頂きたいと思います。また、入学した時点では、この先の4年間で長いものと思われるでしょうが、高校生活を振り返っても分かるように、日々はまさに矢のごとく過ぎ去っていきます。今一度、本学に入学した目標を再確認して下さい。入学後にいろいろな情報を得て、軌道修正することもあるかと思いますが、常に長期的、短期的な目標を持ち、それを見失わずに有意義な大学生活を送って頂けることを願っています。

人間環境デザイン学科

1. 学科主任の挨拶



人間環境デザイン学科主任
米田 郁夫

われわれ人間は、動物と違い、自然環境に対する身体の耐性が低いので、自然のままの状態、そして自然のままの環境の中で、ひとりで生きていくことはできません。そのため、人間は、自然環境に対する耐性の低さを補うために、家族をつくり、集落をつくり、知能を使って生き延びてきました。寒さに耐えるために衣服をつくり、住居をつくり、食を確保するために、狩りをし、そのための道具を作り、食物を栽培し、そのための道具もつくり、やがて機械までもつくて、今日の繁栄を築きました。

つまり、われわれ人間は、生きていくために、そして生活するためには、道具、機械、住宅、街、さらには社会システムといった人工的環境を作り、使わなければなりません。そうした人工的環境をつくるには、必ずデザインという手順が存在します。デザインの良し悪しが、住みよい社会になるか否かを決めると言ってもよいでしょう。したがって、環境を正しくデザインすることは、人間にとって非常に大切な営みになります。

デザインの目的は、言うまでもないことですが、「人」の生活に「豊かさ」をもたらすことです。しかし、今日、この「人」と「豊かさ」の質が問われているのではないのでしょうか。「人」には、年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、すべての人が含まれているということを忘れてはいけません。「人」についてしっかり問い直す必要があるのではないのでしょうか。そして、「豊かさ」とは何かについても、もう一度問い直す必要があるのではないのでしょうか。これまでの「豊かさ」を求めるデザインによって、大切なものが失われていないか・・・。

こうした問題に真摯に向き合うために、人間環境デザイン学科は設立されました。20世紀は、「豊かさ」求めて工業化、都市化、高度経済成長に邁進した側面がありました。それにより、公害、地域コミュニティーの崩壊などに代表される環境問題、社会問題が生じました。こうした過去の出来事についてもきちんと学び、新しい価値観に基づくデザインの理念を構築することも、とても重要なことです。

21世紀は、これまでに経験したことのない超少子高齢社会になります。このことをマイナスではなくプラスの問題とするために、まさに新しい発想のデザインの出番があります。今こそ、多様な人々が存在することを意識したデザイン、かけがえのない地球に負荷をかけないデザイン、限られた資源を浪費しないデザインが求められていると言ってもよいでしょう。自然、文化、伝統を意識したデザイン、街並と調和したデザインも求められます。つまり、いろいろな分野の知識を豊富に持ち、広い視野を持ち、「人」が好きなデザイナーが求められていると言えるでしょう。

人間環境デザイン学科では、3年生から、環境デザインコース、生活支援デザインコース、プロダクトデザインコースの3つの専門コースに分かれますが、1、2年生のときは、すべてのコースに関連した基礎的知識、基礎的技術を幅広く習得してもらうようにしています。広い視野を保つために、専門コースに進んでも、特定の専門分野に限らず、いろいろな分野の知識を習得するという気持ちを持ち続けることを期待します。

楽に単位が取得できる科目はありません。とくに、演習は課題をすべて提出することが義務づけられており、かなりハードなものになります。その分、成し遂げたときの喜びは大きいものになります。言い古されたことですが、玉は磨かなければ決して輝きません。皆さんには、自分の素質に磨きをかけていただきたいと思います。皆さんが光り輝くことを楽しみにしています。

2011年度入学生用

1. 生活支援学科 生活支援学専攻 教育課程表 (2011年度入学生用)

		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	
一般教養的科目(16)	人間探究分野(12)	読解と表現	国語表現法(2) プレゼンテーション技法(2) 児童文学(2)	文章読解(2) 英米の文化とことば(2) 美術一般(2)	口頭表現法(2) ドイツの文化とことば(2) 音楽一般(2)	レポート・論文のまとめ方(2) フランスの文化とことば(2)
		人間と生活の理解	哲学(2) 文化論(2) 生活と住居(2)	文化人類学(2) 心理学(2) ハウジング(2)	生命と倫理(2) 生活と環境(2) 生活と栄養(2)	人間と宗教(2) 人権と生活(2)
		社会と自然の理解	社会学(2) 家族の社会学(2) 数学(2)	ジェンダー論(2) 生活と家族(2) 物理(2)	世代論(2) 日本国憲法(2)	生死の社会学(2) 法学(2)
		経営と管理の知識	経済学(2) まちづくり(2)	経営学(2) 地域研究法(2)	基礎会計学(2) 危機管理と救急法(2)	学校と地域(学校安全を含む)(2)
		総合	総合Ⅰ(2) 総合ⅣA(2) 全学総合ⅠA(2)	総合Ⅱ(2) 総合ⅣB(2) 全学総合ⅠB(2)	総合Ⅲ(2) 井上円了と東洋大学A(2) 全学総合ⅡA(2)	井上円了と東洋大学B(2) 全学総合ⅡB(2)
	文化間コミュニケーション分野	必修科目(4)	専門基礎英語Ⅰ(1) 専門基礎英語Ⅱ(1)	専門応用英語Ⅰ(1) 専門応用英語Ⅱ(1)		
		選択科目	英語Ⅰ(1) 英語Ⅱ(1) TOEICⅠA(1)	中国語Ⅰ(1) 中国語Ⅱ(1) TOEICⅠB(1)	韓国語Ⅰ(1) 韓国語Ⅱ(1) TOEICⅡA(1)	TOEICⅡB(1)
	スポーツ健康分野	スポーツ健康科学実技ⅠA(1) スポーツ健康科学実技ⅠB(1)	スポーツ健康科学実技ⅡA(1) スポーツ健康科学実技ⅡB(1)	スポーツ健康科学実技ⅢA(1) スポーツ健康科学実技ⅢB(1)		
	留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ(4) Special Course in Advanced TOEFLⅡ(4)			
	学部共通科目(8)	必修科目(8)	ライフデザイン学入門(2) 生涯発達論(2) 情報リテラシーⅠ(2) 情報リテラシーⅡ(2)			
選択科目		他学科開放科目の中で選択				
合計(124)	専攻科目(76)	必修科目(22)	生活支援学演習ⅠA(2) 生活支援学演習ⅠB(2) 社会福祉の基礎(2) 専門職論(2) 実習の基礎(2)	生活支援学演習ⅡA(2) 生活支援学演習ⅡB(2)	生活支援学演習ⅢA(2) 生活支援学演習ⅢB(2)	生活支援学演習ⅣA(2) 生活支援学演習ⅣB(2)
			社会調査の基礎(2) 研究の基礎(2)			卒業論文(4)
		共通科目	社会福祉学原論Ⅰ(2) 社会福祉学原論Ⅱ(2) 社会福祉援助技術論Ⅰ(2) 児童福祉論Ⅰ(2) 医学一般(2) 社会福祉発達史(2)	社会福祉援助技術論Ⅱ(2) 社会福祉援助技術論Ⅲ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅰ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅱ(2) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(1) 介護福祉援助技術の基礎(2) 福祉レクリエーション(2)	社会福祉援助技術論Ⅳ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅲ(2) 社会福祉援助技術演習Ⅳ(2) 社会福祉援助技術現場実習(4) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(1) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ(1)	社会福祉援助技術演習Ⅴ(2) 生活支援学専門実習A(2) 生活支援学専門実習B(2)
			高齢者福祉論(2) 障害者福祉論(2) 福祉サービス運営論(2) 権利擁護論(2) 低所得者福祉論(2) 更生保護論(2)	地域福祉論Ⅰ(2) 地域福祉論Ⅱ(2) 社会福祉運営論(2) 就労支援論(2) 社会保障論Ⅰ(2) 社会保障論Ⅱ(2)		
			精神保健Ⅰ(2) 精神保健Ⅱ(2)	精神医学Ⅰ(2) 精神医学Ⅱ(2) 精神保健福祉論Ⅰ(2) 精神保健福祉論Ⅱ(2) 精神保健福祉援助技術各論Ⅰ(2) 精神保健福祉援助技術各論Ⅱ(2) 精神保健福祉援助技術演習Ⅰ(2) 精神保健福祉援助技術演習Ⅱ(2) 精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ(1)	精神保健福祉援助技術実習(4) 精神保健福祉援助技術実習指導Ⅱ(1) 精神保健福祉援助技術実習指導Ⅲ(1) 精神科リハビリテーション学Ⅰ(2) 精神科リハビリテーション学Ⅱ(2)	精神保健福祉専門実習A(2) 精神保健福祉専門実習B(2)
				医療福祉総論(2)	医療ソーシャルワーク論(2) 医療福祉演習Ⅰ(2) 医療福祉演習Ⅱ(2)	医療福祉専門実習A(2) 医療福祉専門実習B(2)
					生活支援学特別講義A(2)	生活支援学特別講義B(2)
			子どもの権利論(2)	子どもと文学(2)	児童福祉論Ⅱ(2)	
		介護福祉士コース科目	介護福祉援助概論Ⅰ(2) 介護福祉援助概論Ⅱ(2)	介護福祉援助概論Ⅲ(2)	介護福祉援助概論Ⅳ(2) 介護福祉援助概論Ⅴ(2)	介護福祉援助概論Ⅵ(2)
			生活支援技術Ⅰ(1) 生活支援技術Ⅱ(1)	生活支援技術Ⅲ(1) 生活支援技術Ⅳ(1) 生活支援技術Ⅴ(1) 生活支援技術Ⅵ(1) 介護コミュニケーション技術Ⅰ(2) 介護コミュニケーション技術Ⅱ(2)	生活支援技術Ⅶ(1) 生活支援技術Ⅷ(1)	生活支援技術Ⅸ(1) 生活支援技術Ⅹ(1)
			介護過程Ⅰ(1)	介護過程Ⅱ(1)	介護過程Ⅲ(1)	介護過程Ⅳ(1)
			介護総合演習Ⅰ(1)	介護総合演習Ⅱ(1) 介護総合演習Ⅲ(1)	介護総合演習Ⅳ(1)	
介護福祉実習Ⅰ(2)	介護福祉実習Ⅱ(3)		介護福祉実習Ⅲ(3)	介護福祉実習Ⅳ(2)		
発達と老化の理解(2) 障害の理解(2)	認知症の理解Ⅰ(2) 認知症の理解Ⅱ(2)		こころとからだのしくみⅠ(2) こころとからだのしくみⅡ(2)	こころとからだのしくみⅢ(2)		

生活支援

2. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		最低修得単位数	
一般教養的科目	人間探究分野	読解と表現	12
		人間と生活の理解	
		社会と自然の理解	
		経営と管理の知識	
		総合	
	文化間コミュニケーション分野	4	
	スポーツ健康分野		
	留学支援科目		
小計		16	
専門科目	学部共通科目	必修科目	8
		選択科目	
	学科専門科目	必修科目	22
		選択科目	46
	小計		76
中計		92	
上記をすべて含んで、124単位以上修得			

3. 学科専門科目の履修方法

(1)必修科目

- ①22単位すべてを修得しなければなりません。
- ②生活支援学演習は、1年次は入学時に分野を問わずクラス分けがされています。2年次以降については別途説明会を行う予定です。

(2)選択科目

- ①46単位以上を修得しなければなりません。
- ②科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。個人的理由によって、やむを得ず途中からの履修を希望する場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうか確認してから履修登録してください。なお、科目の後ろにA・Bと記載されている科目についてはこの限りではありません。
- ③卒業論文は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。
- ④「社会福祉援助技術現場実習」及び「精神保健福祉援助技術実習」はそれぞれ履修するための条件があります。P116～117・P122～123「Ⅲ. 諸資格について」を参照してください。
- ⑤介護福祉士コース科目は、介護福祉士コースに所属する学生のみ履修することができます。

(3)介護福祉士コースの履修単位

「介護福祉士コース」の学生は、コース確定後履修登録の上限を通常の24単位に加えて、4単位を余分に履修することができます。

(4)生活支援学科 学外実習スケジュール

生活支援学科学外実習スケジュールについては、P38を確認してください。

4. 学部共通科目の履修方法

(1)必修科目

- ① 8単位すべてを修得しなければなりません。
- ② 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」はあらかじめクラス分けがされています。指定されたクラスの授業を履修してください。

(2)選択科目

単位数の指定は特にありません。下記の他学科の開放科目の中で、各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

ただし演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に人数調整をする場合があります。詳細は各学期はじめに配布される「履修登録のしおり」を確認してください。

〈健康スポーツ学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
健康スポーツ学概論Ⅰ(2) 健康スポーツ学概論Ⅱ(2) 解剖学Ⅰ(2) 解剖学Ⅱ(2) 公衆衛生学Ⅰ(2) エアロビクス実習A(1)	運動生理学Ⅰ(2) 運動生理学Ⅱ(2) コーチング概論(2) 生涯スポーツ論(2) レクリエーション実習(1)		
健康教育学(2)	機能解剖学Ⅰ(2) 機能解剖学Ⅱ(2) スポーツ医学(2) トレーニング実習(1) トレーニングプログラミング演習Ⅰ(1) バイオメカニクス演習(1) スポーツ社会学(2) スポーツ人類学(2) スポーツ史Ⅰ(2) スポーツ史Ⅱ(2) アジアのスポーツ文化(2) ヨーロッパのスポーツ文化(2) 発育・発達・加齢論(2) 子ども健康スポーツ論(2) レクリエーション論(2) 小児保健(含学校保健)(2) 運動あそび指導法演習(1) 高齢者健康スポーツ論(2) 障害者スポーツ論(2) 高齢者健康スポーツ指導法演習(1) 障害者スポーツ指導法演習Ⅰ(1)	応用解剖学(2) スポーツと栄養(2) 運動処方(含運動負荷試験)(2) スポーツ心理学(2) トレーニングプログラミング演習Ⅱ(1) 健康文化論A(2) 健康文化論B(2) 健康政策と行政(2) 地域スポーツクラブ論(2) スポーツ政策論(2) 身体文化論(2) 発達病態生理学(2) いのちの教育(2) 子どもレクリエーション実習(1) 音楽リズム指導法演習(1) 高齢者・障害者と家族(2) 高齢者・障害者レクリエーション演習(1) 障害者スポーツ指導法演習Ⅱ(1)	
健康スポーツ産業論(2) 国際健康スポーツ交流(2) 免疫と薬理(2)	スポーツ救急法演習(2) 運動傷害と予防(2) エアロビクス実習B(1)	フィットネス概論(2) トレーニング基礎論(2)	スポーツとコミュニケーションA(2) スポーツとコミュニケーションB(2)
	リハビリテーション論(2) 測定評価(2) 公衆衛生学Ⅱ(2)	エアロビクス指導法演習(1) アクアビクス指導法演習(1) 健康管理学(2)	スポーツマネジメント(2) 舞踏の文化論(2)
		労働衛生Ⅰ(2) 労働衛生Ⅱ(2) 労働安全衛生法Ⅰ(2)	労働安全衛生法Ⅱ(2) 労働基準法(2)

〈人間環境デザイン学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
人間工学(2)	コミュニケーション技術論(2) マーケティング(2) 建築歴史意匠B(2) 産業とプロダクトデザイン(2) 道具の歴史(2)	福祉住環境コーディネート論(2) 情報メディアデザイン(2) 安全工学(2) 医療福祉建築計画(2) リハビリテーション工学(2) 情報デザイン I (2)	

5. 一般教養的科目

(1)人間探究分野

12単位以上を修得しなければなりません。

(2)文化間コミュニケーション分野

1年次に「専門基礎英語Ⅰ」「専門基礎英語Ⅱ」を、2年次に「専門応用英語Ⅰ」「専門応用英語Ⅱ」を修得しなければなりません。クラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(3)スポーツ健康分野

①単位数の指定は特にありません。

②授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。

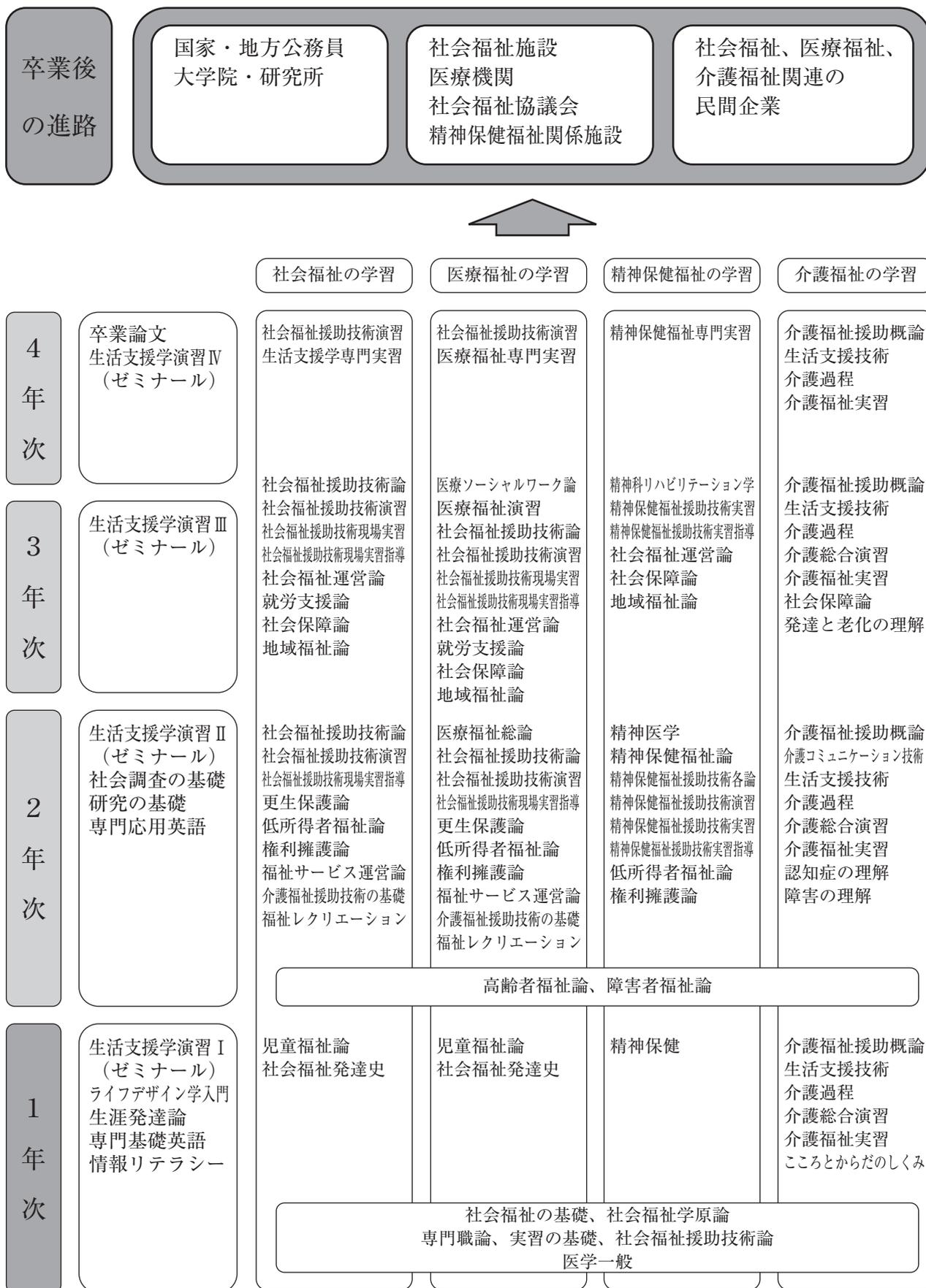
科目の後ろに記載されているⅠ・Ⅱ・Ⅲ及びA・Bの順を追って履修する必要はありません。

6. その他の科目

(1)他学科の科目で、「4. 学部共通科目の履修方法」の「(2)選択科目」に記載されていない科目については、原則として、履修することも単位を修得することもできません。

(2)教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」「教科に関する科目」(P186・187を参照)で、自分の所属する学科・専攻の教育課程表にない科目は、教職の専門科目となります。単位修得しても、卒業単位として計算することはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

7. 履修モデル及び就職先



1. 生活支援学科 子ども支援学専攻 教育課程表 (2011年度入学生用)

		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年			
子ども支援	一般教養的科目(16)	読解と表現	国語表現法(2) プレゼンテーション技法(2) 児童文学(2)	文章読解(2) 英米の文化とことば(2) 美術一般(2)	口頭表現法(2) ドイツの文化とことば(2) 音楽一般(2)	レポート・論文のまとめ方(2) フランスの文化とことば(2)		
		人間と生活の理解	哲学(2) 文化論(2) 生活と住居(2)	文化人類学(2) 心理学(2) ハウジング(2)	生命と倫理(2) 生活と環境(2) 生活と栄養(2)	人間と宗教(2) 人権と生活(2)		
		社会と自然の理解	社会学(2) 家族の社会学(2) 数学(2)	ジェンダー論(2) 生活と家族(2) 物理(2)	世代論(2) 日本国憲法(2)	生死の社会学(2) 法学(2)		
		経営と管理の知識	経済学(2) まちづくり(2)	経営学(2) 地域研究法(2)	基礎会計学(2) 危機管理と救急法(2)	学校と地域 (学校安全を含む) (2)		
		総合	総合 I (2) 総合 IV A (2) 全学総合 I A (2)	総合 II (2) 総合 IV B (2) 全学総合 I B (2)	総合 III (2) 井上円了と東洋大学 A (2) 全学総合 II A (2)	井上円了と東洋大学 B (2) 全学総合 II B (2)		
		文化間コミュニケーション分野	必修科目 (4)	専門基礎英語 I (1) 専門基礎英語 II (1)	専門応用英語 I (1) 専門応用英語 II (1)			
			選択科目	英語 I (1) 英語 II (1) TOEIC I A (1)	中国語 I (1) 中国語 II (1) TOEIC I B (1)	韓国語 I (1) 韓国語 II (1) TOEIC II A (1)	TOEIC II B (1)	
		スポーツ健康分野	スポーツ健康科学実技 I A (1) スポーツ健康科学実技 I B (1)	スポーツ健康科学実技 II A (1) スポーツ健康科学実技 II B (1)	スポーツ健康科学実技 III A (1) スポーツ健康科学実技 III B (1)			
		算支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I (4) Special Course in Advanced TOEFL II (4)				
		合計 (124)	学部共通科目 (8)	必修科目 (8)	ライフデザイン学入門(2) 生涯発達論(2) 情報リテラシー I (2) 情報リテラシー II (2)			
				選択科目	他学科開放科目の中で選択			
			専攻科目 (72)	必修科目 (18)	子ども支援学演習 I A (2) 子ども支援学演習 I B (2) 社会福祉の基礎(2) 実習の基礎(2)	子ども支援学演習 II (2)	子ども支援学演習 III A (2) 子ども支援学演習 III B (2)	子ども支援学演習 IV (2) 保育実践演習(2)
	保育原理 I (2) 児童福祉論 I (2) 社会福祉学原論 I (2) 教職概論(2)				社会福祉援助技術演習 I (2) 子どもの保健 I (2) 子どもの保健 II (2) 子どもの保健 III (1) 子どもの食と栄養 (実習含む) (2) 社会的養護内容(1) 乳児保育 I (1) 乳児保育 II (1) 保育実習 I A (施設) (2) 保育実習指導 I A (施設) (1)	障害児保育 I (1) 障害児保育 II (1) 保育実習 I B (保育所) (2) 保育実習指導 I B (保育所) (1) 幼児理解と保育カウンセリング(2)	卒業論文(4) 保育原理 II (2) 乳児の生活とあそび(2) 保育相談支援(1) 保育実習 II (保育所) (2) 保育実習 III (施設) (2) 保育実習指導 II (保育所) (1) 保育実習指導 III (施設) (1)	
				社会的養護(2)	家庭支援論(2)			
					幼児教育論 I (2) 幼児教育論 II (2)	幼児教育方法 (情報機器の活用を含む) (2)	教育実習 III (事前・事後指導を含む) (5) 教職実践演習 (幼稚園) (2)	
				教育法規(2)				
	幼児教育基礎論 I (2) 幼児教育基礎論 II (2) 保育表現技術 (造形) (1) 保育表現技術 I (音楽) (1) 保育表現技術 I (体育) (1)			発達心理学(2) 教育心理学(1) 保育表現技術 (言語) (1) 保育表現技術 II (音楽) (1) 保育表現技術 II (体育) (1) 保育内容演習 (ことば) (1) 保育内容演習 (環境) (1) 保育内容演習 (健康) (1) 保育内容演習 (人間関係) (1)	保育指導法(2) 保育教育課程論(2) 保育内容総論(1) 保育内容演習 (音楽表現) (1) 保育内容演習 (造形表現) (1) 保育内容演習 (身体表現) (1)	音楽あそびの実践(2) 体育あそびの実践(2) 造形あそびの実践(2)		
	社会福祉学原論 II (2) 社会福祉援助技術論 I (2) 医学一般(2) 社会福祉発達史(2) 専門職論(2)	社会調査の基礎(2) 社会福祉援助技術論 II (2) 社会福祉援助技術論 III (2) 社会福祉援助技術演習 II (2) 社会福祉援助技術現場実習指導 I (1) 介護福祉援助技術の基礎(2) 福祉レクリエーション(2) 医療福祉総論(2)		社会福祉援助技術論 IV (2) 社会福祉援助技術演習 III (2) 社会福祉援助技術演習 IV (2) 社会福祉援助技術現場実習(4) 社会福祉援助技術現場実習指導 II (1) 社会福祉援助技術現場実習指導 III (1)	社会福祉援助技術演習 V (2)			
		高齢者福祉論(2) 障害者福祉論(2) 福祉サービス運営論(2) 権利擁護論(2) 低所得者福祉論(2) 更生保護論(2)	地域福祉論 I (2) 地域福祉論 II (2) 社会福祉運営論(2) 就労支援論(2) 社会保障論 I (2) 社会保障論 II (2)					
	子どもの権利論(2) 子育て支援実践(2)	児童福祉論 II (2) 子どもと文学(2)						

2. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		最低修得単位数	
一般教養的科目	人間探究分野	読解と表現	12
		人間と生活の理解	
		社会と自然の理解	
		経営と管理の知識	
		総合	
	文化間コミュニケーション分野	4	
	スポーツ健康分野		
	留学支援科目		
小計		16	
専門科目	学部共通科目	必修科目	8
		選択科目	
	学科専門科目	必修科目	18
		選択科目	46
	小計		72
中計		88	
上記をすべて含んで、124単位以上修得			

3. 学科専門科目の履修方法

(1)必修科目

- ①18単位すべてを修得しなければなりません。
- ②子ども支援学演習は、1年次は入学時に分野を問わずクラス分けがされています。2年次以降については別途説明会を行う予定です。

(2)選択科目

- ①46単位以上を修得しなければなりません。
- ②科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。個人的理由によって、やむを得ず途中からの履修を希望する場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうか確認してから履修登録してください。
- ③卒業論文は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。
- ④「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」はそれぞれ履修するための条件があります。P132～135「Ⅲ. 諸資格について」を参照してください。

(3)生活支援学科 学外実習スケジュール

生活支援学科学外実習スケジュールについては、P38を確認してください。

4. 学部共通科目の履修方法

(1) 必修科目

- ① 8単位すべてを修得しなければなりません。
- ② 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」はあらかじめクラス分けがされています。指定されたクラスの授業を履修してください。

(2) 選択科目

単位数の指定は特にありません。下記の他学科の開放科目の中で、各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

ただし演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に人数調整をする場合があります。詳細は各学期はじめに配布される「履修登録のしおり」を確認してください。

〈健康スポーツ学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
健康スポーツ学概論Ⅰ(2) 健康スポーツ学概論Ⅱ(2) 解剖学Ⅰ(2) 解剖学Ⅱ(2) 公衆衛生学Ⅰ(2) エアロビクス実習A(1)	運動生理学Ⅰ(2) 運動生理学Ⅱ(2) コーチング概論(2) 生涯スポーツ論(2) レクリエーション実習(1)		
健康教育学(2)	機能解剖学Ⅰ(2) 機能解剖学Ⅱ(2) スポーツ医学(2) トレーニング実習(1) トレーニングプログラミング演習Ⅰ(1) バイオメカニクス演習(1) スポーツ社会学(2) スポーツ人類学(2) スポーツ史Ⅰ(2) スポーツ史Ⅱ(2) アジアのスポーツ文化(2) ヨーロッパのスポーツ文化(2) 発育・発達・加齢論(2) 子ども健康スポーツ論(2) レクリエーション論(2) 小児保健(含学校保健)(2) 運動あそび指導法演習(1) 高齢者健康スポーツ論(2) 障害者スポーツ論(2) 高齢者健康スポーツ指導法演習(1) 障害者スポーツ指導法演習Ⅰ(1)	応用解剖学(2) スポーツと栄養(2) 運動処方(含運動負荷試験)(2) スポーツ心理学(2) トレーニングプログラミング演習Ⅱ(1) 健康文化論A(2) 健康文化論B(2) 健康政策と行政(2) 地域スポーツクラブ論(2) スポーツ政策論(2) 身体文化論(2) 発達病態生理学(2) いのちの教育(2) 子どもレクリエーション実習(1) 音楽リズム指導法演習(1) 高齢者・障害者と家族(2) 高齢者・障害者レクリエーション演習(1) 障害者スポーツ指導法演習Ⅱ(1)	
健康スポーツ産業論(2) 国際健康スポーツ交流(2) 免疫と薬理(2)	スポーツ救急法演習(2) 運動傷害と予防(2) エアロビクス実習B(1)	フィットネス概論(2) トレーニング基礎論(2)	スポーツとコミュニケーションA(2) スポーツとコミュニケーションB(2)
	リハビリテーション論(2) 測定評価(2) 公衆衛生学Ⅱ(2)	エアロビクス指導法演習(1) アクアビクス指導法演習(1) 健康管理学(2)	スポーツマネジメント(2) 舞踏の文化論(2)
		労働衛生Ⅰ(2) 労働衛生Ⅱ(2) 労働安全衛生法Ⅰ(2)	労働安全衛生法Ⅱ(2) 労働基準法(2)

〈人間環境デザイン学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
人間工学(2) 道具の歴史(2)	コミュニケーション技術論(2) マーケティング(2) 建築歴史意匠 B(2) 産業とプロダクトデザイン(2) 道具の歴史(2)	福祉住環境コーディネート論(2) 情報メディアデザイン(2) 安全工学(2) 医療福祉建築計画(2) リハビリテーション工学(2) 情報デザイン I(2)	

5. 一般教養的科目

(1)人間探究分野

12単位以上を修得しなければなりません。

(2)文化間コミュニケーション分野

1年次に「専門基礎英語Ⅰ」「専門基礎英語Ⅱ」を、2年次に「専門応用英語Ⅰ」「専門応用英語Ⅱ」を修得しなければなりません。クラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(3)スポーツ健康分野

①単位数の指定は特にありません。

②授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。

I・II・III及びA・Bの順を追って履修する必要はありません。

6. その他の科目

(1)他学科の科目で、「4. 学部共通科目の履修方法」の「(2)選択科目」に記載されていない科目については、原則として、履修することも単位を修得することもできません。

(2)教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」「教科に関する科目」で、自分の所属する学科・専攻の教育課程表にない科目は、教職の専門科目となります。単位修得しても、卒業単位として計算することはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

生活支援学科 学外実習スケジュール (2011年度入学生用)

各資格には、法令に定められた学外実習が必要となります。以下に資格別の学外実習スケジュールを記載しておきます。それぞれの実習には、必要な手続き、ガイダンス、参加条件等が定められていますので、履修要覧やガイダンス資料、掲示等をよく確認し、漏れのないようにしてください。なお、学外実習スケジュールは関連法令改正等の理由により変更となる場合があります。

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		備考
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
社会福祉士					社会福祉援助技術 現場実習 6～11月のうち計24日間				
精神保健福祉士					精神保健福祉援助 技術実習(※1) 6～11月のうち計24日間				
介護福祉士		介護福祉 実習Ⅰ 11月 のうち計12日		介護福祉 実習Ⅱ 11月 連続18日間	介護福祉 実習Ⅲ 5月 連続18日間		介護福祉 実習Ⅳ 5月 連続12日間		
保育士				保育実習ⅠA (施設) 2・3月 11日間	保育実習ⅠB (保育所) 8・9月 11日間		保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(施設) 8・9月 11日間		保育実習Ⅱ(保育 所)及び保育実習 Ⅲ(施設)はどち らかを選択
幼稚園教諭							教育実習Ⅲ 5～7月 4週間		
高等学校教諭 (福祉)							教育実習Ⅱ 5～7月 2週間		

(※1) 社会福祉士と精神保健福祉士の両方の取得を希望する学生は、精神保健福祉援助技術実習を4年次に実施することになります。

1. 健康スポーツ学科 教育課程表 (2011年度入学生用)

		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年			
一般教養的科目 (18)	人間探究分野 (12)	読解と表現	国語表現法(2) プレゼンテーション技法(2) 児童文学(2)	文章読解(2) 英米の文化とことば(2) 美術一般(2)	口頭表現法(2) ドイツの文化とことば(2) 音楽一般(2)	レポート・論文のまとめ方(2) フランスの文化とことば(2)		
		人間と生活の理解	哲学(2) 文化論(2) 生活と住居(2)	文化人類学(2) 心理学(2) ハウジング(2)	生命と倫理(2) 生活と環境(2) 生活と栄養(2)	人間と宗教(2) 人権と生活(2)		
		社会と自然の理解	社会学(2) 家族の社会学(2) 数学(2)	ジェンダー論(2) 生活と家族(2) 物理(2)	世代論(2) 日本国憲法(2)	生死の社会学(2) 法学(2)		
		経営と管理の知識	経済学(2) まちづくり(2)	経営学(2) 地域研究法(2)	基礎会計学(2) 危機管理と救急法(2)	学校と地域 (学校安全を含む) (2)		
		総合	総合 I (2) 総合 IV A (2) 全学総合 I A (2)	総合 II (2) 総合 IV B (2) 全学総合 I B (2)	総合 III (2) 井上円了と東洋大学 A (2) 全学総合 II A (2)	井上円了と東洋大学 B (2) 全学総合 II B (2)		
	文化間コミュニケーション分野	必修科目 (4)	専門基礎英語 I (1) 専門基礎英語 II (1)	専門応用英語 I (1) 専門応用英語 II (1)				
		選択科目	英語 I (1) 英語 II (1) TOEIC I A (1)	中国語 I (1) 中国語 II (1) TOEIC I B (1)	韓国語 I (1) 韓国語 II (1) TOEIC II A (1)	TOEIC II B (1)		
	スポーツ健康分野 (2)	スポーツ健康科学実技 I A (1) スポーツ健康科学実技 I B (1)	スポーツ健康科学実技 II A (1) スポーツ健康科学実技 II B (1)	スポーツ健康科学実技 III A (1) スポーツ健康科学実技 III B (1)				
	留学科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I (4) Special Course in Advanced TOEFL II (4)					
	合計 (124)	学部共通科目 (8)	必修科目 (8)	ライフデザイン学入門(2) 生涯発達論(2) 情報リテラシー I (2) 情報リテラシー II (2)				
選択科目			他学科解放科目の中から選択					
専門科目 (90)		学科専門科目 (74)	必修科目 (36)	健康スポーツ学概論 I (2) 健康スポーツ学概論 II (2) 健康科学概論(2) 解剖学 I (2) 解剖学 II (2) 生理・生化学 I (2) 生理・生化学 II (2) 公衆衛生学 I (2) エアロビクス実習 A (1)	運動生理学 I (2) 運動生理学 II (2) コーチング概論(2) 生涯スポーツ論(2) レクリエーション実習(1) 健康社会と福祉(2)	健康スポーツ学演習 I A (2) 健康スポーツ学演習 I B (2)	健康スポーツ学演習 II A (2) 健康スポーツ学演習 II B (2)	
			選択必修科目 (5)	健康心理学(2) 健康教育学(2) 健康社会学(2)	解剖学実習(1) 生理生化学実習(1) 運動生理学実習(1) 公衆衛生学実習(1) フィールドワーク実習(1)	2科目選択必修		
		選択科目 (30)	コース別履修科目	トレーニング科学コース	機能解剖学 I (2) 機能解剖学 II (2) スポーツ医学(2) トレーニング実習(1) トレーニングプログラミング演習 I (1) バイオメカニクス演習(1)	応用解剖学(2) スポーツと栄養(2) 運動処方 (含運動負荷試験) (2) スポーツ心理学(2) トレーニングプログラミング演習 II (1)		
				コミュニティスポーツコース	スポーツ社会学(2) スポーツ人類学(2) スポーツ史 I (2) スポーツ史 II (2) アジアのスポーツ文化(2) ヨーロッパのスポーツ文化(2)	健康文化論 A (2) 健康文化論 B (2) 健康政策と行政(2) 地域スポーツクラブ論(2) スポーツ政策論(2) 身体文化論(2)		
共通科目		子ども健康科学コース	発育・発達・加齢論(2) 子ども健康スポーツ論(2) レクリエーション論(2) 小児保健 (含学校保健) (2) 運動あそび指導法演習(1)		発達病態生理学(2) いのちの教育(2) 子どもレクリエーション実習(1) 音楽リズム指導法演習(1)			
		ユニバーサルスポーツコース	発育・発達・加齢論(2) 障害者福祉論(2) 高齢者健康スポーツ論(2) 障害者スポーツ論(2) レクリエーション論(2) 高齢者健康スポーツ指導法演習(1) 障害者スポーツ指導法演習 I (1)		社会保障論 I (2) 高齢者・障害者と家族(2) 高齢者・障害者レクリエーション演習(1) 障害者スポーツ指導法演習 II (1)			
教職科目		共通科目	健康スポーツ産業論(2) 国際健康スポーツ交流(2) スポーツ救急法演習(2) 医学一般(2) ボランティア実習(1) フィットネス概論(2) トレーニング基礎論(2) スポーツとコミュニケーション A (2) スポーツとコミュニケーション B (2)	免疫と薬理(2) 運動傷害と予防(2) リハビリテーション論(2) 測定評価(2) 公衆衛生学 II (2) エアロビクス指導法演習(1) アクアビクス指導法演習(1)	エアロビクス実習 B (1) 健康管理学(2) 舞踏の文化論(2) 労働衛生 I (2) 労働衛生 II (2) 労働基準法(2) インターンシップ実習(1)	スポーツマネジメント(2) 労働安全衛生法 I (2) 労働安全衛生法 II (2) 健康産業施設等現場実習(1) 卒業論文(4)		
			運動学 (運動方法学を含む) (2) 看護学 I (2) 看護学 II (2) 看護学 III (2) 養護概論(2)	スポーツ実習・指導法 (サッカー) (1) スポーツ実習・指導法 (バレーボール) (1) スポーツ実習・指導法 (テニス) (1) スポーツ実習・指導法 (バドミントン) (1) スポーツ実習・指導法 (剣道) (1)	スポーツ実習・指導法 (陸上) (1) スポーツ実習・指導法 (器械運動) (1) 看護学実習(2)			

健康スポーツ

2. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		最低修得単位数	
一般教養的科目	人間探究分野	読解と表現	12
		人間と生活の理解	
		社会と自然の理解	
		経営と管理の知識	
		総合	
	文化間コミュニケーション分野	4	
	スポーツ健康分野	2	
	留学支援科目		
小計		18	
専門科目	学部共通科目	必修科目	8
		選択科目	
	学科専門科目	必修科目	36
		選択必修科目	5
		選択科目	30
		小計	74
小計		90	
中計		108	
上記をすべて含んで、124単位以上修得			

3. 学科専門科目の履修方法

(1) 必修科目

- ① 36単位すべてを修得しなければなりません。
- ② 「エアロビクス実習A」「レクリエーション実習」「健康スポーツ学演習」のクラス分けについては、別途ガイダンスにて周知します。

(2) 選択必修科目

- ① 1年次に「健康心理学」「健康教育学」「健康社会学」の3科目のうち、1科目を選択し、履修・修得しなければなりません。
- ② 2年次に「解剖学実習」「生理生化学実習」「運動生理学実習」「公衆衛生学実習」「フィールドワーク実習」の5科目のうち、2科目を選択し、履修・修得しなければなりません。科目の選択方法は、別途ガイダンスにて周知します。
- ③ 1～3年次に「水泳実習」「ゴルフ実習」「ダンス実習」「スノースポーツ実習」「体力づくり運動実習」「野外活動実習」の6科目のうち、1科目を選択し、履修・修得しなければなりません。なお履修科目により、別途に費用が発生します。

(3) 選択科目

- ① 2年次からのコースについては、別途ガイダンスにて説明します。
- ② 「看護学実習」を履修するためには、「看護学Ⅰ」「看護学Ⅱ」「看護学Ⅲ」を事前に修得している必要があります。
- ③ 「健康産業施設等現場実習」については、健康運動実践指導者又は健康運動指導士の資格の取得を希望する学生を対象としていますので、それ以外の学生は履修を制限する場合があります。
- ④ 「卒業論文」は8セメスタ以降に履修できます。提出時期・方法については別途掲示します。

※演習・実習科目については、授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があ

ります。詳細は各学期はじめに配布される「履修登録のしおり」を確認してください。

※科目の後ろにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと記載されている科目については、原則としてⅠを修得した後にⅡを、Ⅱを修得した後にⅢを、というように順を追って履修してください。個人的理由によって、やむを得ず途中からの履修を希望する場合には、必ず1回目の授業で担当教員に相談し、授業の履修が可能かどうかを確認してから履修登録してください。なお、科目の後ろにA・Bと記載されている科目についてはこの限りではありません。

4. 学部共通科目の履修方法

(1)必修科目

- ① 8単位すべてを修得しなければなりません。
- ② 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」はあらかじめクラス分けがされています。指定されたクラスの授業を履修してください。

(2)選択科目

単位数の指定は特にありません。下記の他学科の開放科目の中で、各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

ただし「社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」及び「精神保健福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「精神保健福祉援助技術実習」については、社会福祉士及び精神保健福祉士の受験資格を得るためのガイダンスにすべて出席し、その後の登録・手続等をすべて不備なく行っていることが条件になります。

〈生活支援学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
社会福祉の基礎(2)	社会調査の基礎(2)	社会福祉援助技術論Ⅳ(2)	社会福祉援助技術演習Ⅴ(2)
専門職論(2)	社会福祉援助技術論Ⅱ(2)	社会福祉援助技術演習Ⅲ(2)	
社会福祉学原論Ⅰ(2)	社会福祉援助技術論Ⅲ(2)	社会福祉援助技術演習Ⅳ(2)	
社会福祉学原論Ⅱ(2)	社会福祉援助技術演習Ⅰ(2)	社会福祉援助技術現場実習(4)	
社会福祉援助技術論Ⅰ(2)	社会福祉援助技術演習Ⅱ(2)	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(1)	
児童福祉論Ⅰ(2)	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(1)	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ(1)	
精神保健Ⅰ(2)	介護福祉援助技術の基礎(2)	精神保健福祉援助技術実習(4)	
精神保健Ⅱ(2)	医療福祉総論(2)	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅱ(1)	
	精神医学Ⅰ(2)	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅲ(1)	
	精神医学Ⅱ(2)	精神科リハビリテーション学Ⅰ(2)	
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ(2)	精神科リハビリテーション学Ⅱ(2)	
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ(2)	医療ソーシャルワーク論(2)	
	精神保健福祉援助技術演習Ⅰ(2)		
	精神保健福祉援助技術演習Ⅱ(2)		
	精神保健福祉援助技術実習指導Ⅰ(1)		
	高齢者福祉論(2)	地域福祉論Ⅰ(2)	
	福祉サービス運営論(2)	地域福祉論Ⅱ(2)	
	権利擁護論(2)	社会福祉運営論(2)	
	低所得者福祉論(2)	就労支援論(2)	
	更生保護論(2)	社会保障論Ⅱ(2)	
児童福祉論Ⅱ(2)			

〈人間環境デザイン学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
人間工学(2)	コミュニケーション技術論(2) マーケティング(2) 建築歴史意匠B(2) 産業とプロダクトデザイン(2) 道具の歴史(2)	福祉住環境コーディネート論(2) 情報メディアデザイン(2) 安全工学(2) 医療福祉建築計画(2) リハビリテーション工学(2) 情報デザイン I (2)	

5. 一般教養的科目

(1)人間探究分野

12単位以上を修得しなければなりません。

(2)文化間コミュニケーション分野

1年次に「専門基礎英語Ⅰ」「専門基礎英語Ⅱ」を、2年次に「専門応用英語Ⅰ」「専門応用英語Ⅱ」を修得しなければなりません。クラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(3)スポーツ健康分野

①2単位を修得しなければなりません。

②授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。

またスポーツ健康科学実技は、できる限り、A・B各1単位以上を履修してください。

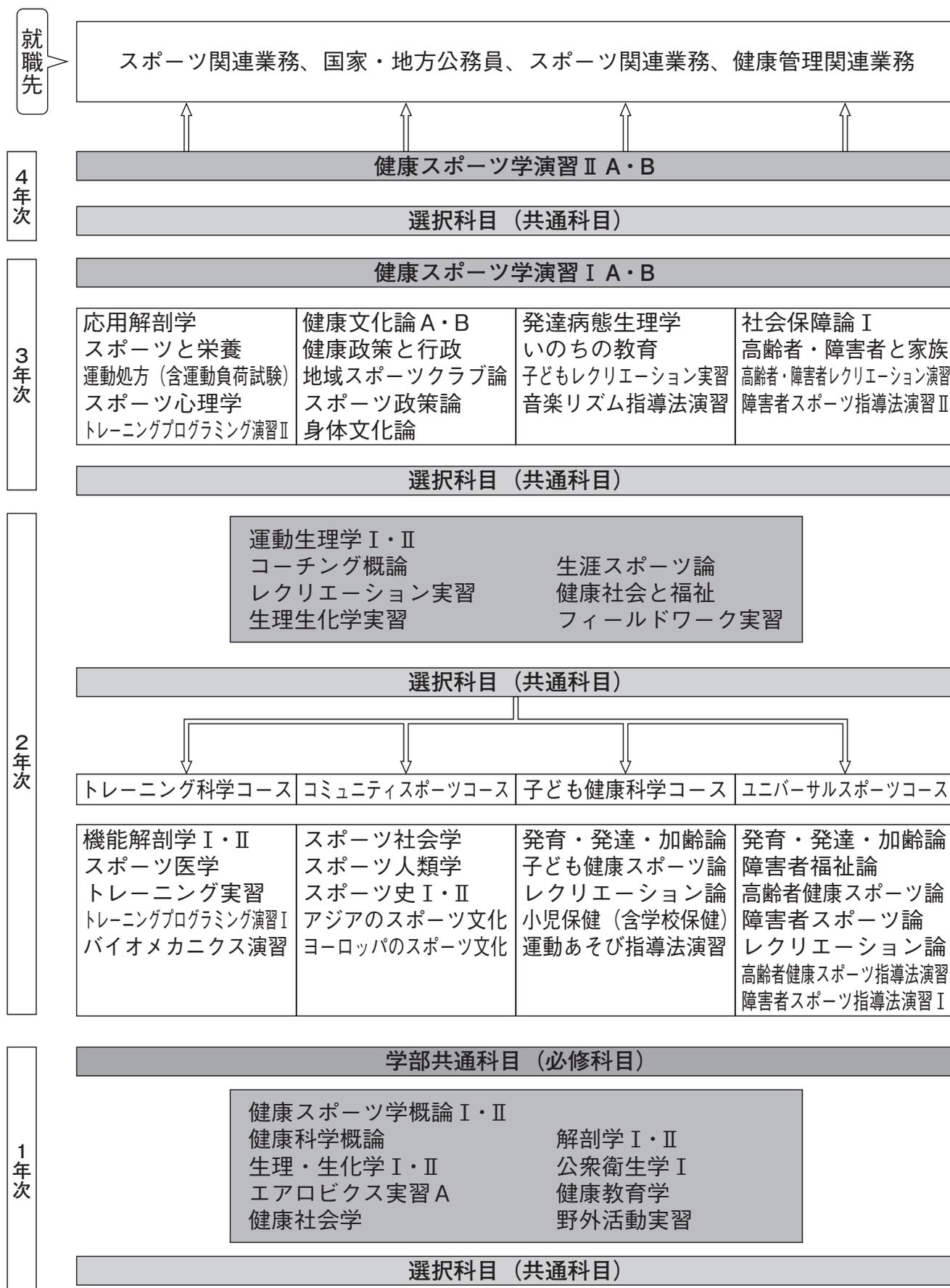
科目の後ろに記載されているⅠ・Ⅱ・Ⅲ及びA・Bの順を追って履修する必要はありません。

6. その他の科目

(1)他学科の科目で、「4. 学部共通科目の履修方法」の「(2)選択科目」に記載されていない科目については、原則として、履修することも単位を修得することもできません。

(2)教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」「教科に関する科目」で、自分の所属する学科の教育課程表にない科目は、教職の専門科目となります。単位修得しても、卒業単位として計算することはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

7. 履修モデル及び就職先



1. 人間環境デザイン学科 教育課程表 (2011年度入学生用)

		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年			
人間環境 デザイン	一般教養的科目(16)	読解と表現	国語表現法(2) プレゼンテーション技法(2) 児童文学(2)	文章読解(2) 英米の文化とことば(2) 美術一般(2)	口頭表現法(2) ドイツの文化とことば(2) 音楽一般(2)	レポート・論文のまとめ方(2) フランスの文化とことば(2)		
		人間と生活の理解	哲学(2) 文化論(2) 生活と住居(2)	文化人類学(2) 心理学(2) ハウジング(2)	生命と倫理(2) 生活と環境(2) 生活と栄養(2)	人間と宗教(2) 人権と生活(2)		
		社会と自然の理解	社会学(2) 家族の社会学(2) 数学(2)	ジェンダー論(2) 生活と家族(2) 物理(2)	世代論(2) 日本国憲法(2)	生死の社会学(2) 法学(2)		
		経営と管理の知識	経済学(2) まちづくり(2)	経営学(2) 地域研究法(2)	基礎会計学(2) 危機管理と救急法(2)	学校と地域 (学校安全を含む) (2)		
		総合	総合 I (2) 総合 IV A (2) 全学総合 I A (2)	総合 II (2) 総合 IV B (2) 全学総合 I B (2)	総合 III (2) 井上円了と東洋大学 A (2) 全学総合 II A (2)	井上円了と東洋大学 B (2) 全学総合 II B (2)		
	文化間コミュニケーション分野	必修科目 (4)	専門基礎英語 I (1) 専門基礎英語 II (1)	専門応用英語 I (1) 専門応用英語 II (1)				
		選択科目	英語 I (1) 英語 II (1) TOEIC I A (1)	中国語 I (1) 中国語 II (1) TOEIC I B (1)	韓国語 I (1) 韓国語 II (1) TOEIC II A (1)	TOEIC II B (1)		
	スポーツ健康分野		スポーツ健康科学実技 I A (1) スポーツ健康科学実技 I B (1)	スポーツ健康科学実技 II A (1) スポーツ健康科学実技 II B (1)	スポーツ健康科学実技 III A (1) スポーツ健康科学実技 III B (1)			
	留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I (4) Special Course in Advanced TOEFL II (4)					
	合計 (124)	学部共通科目 (8)	必修科目 (8)	ライフデザイン学入門(2) 生涯発達論(2) 情報リテラシー I (2) 情報リテラシー II (2)				
			選択科目	他学科開放科目の中で選択				
		専門科目 (7)	必修科目 (14)	人間環境デザイン学概論(2) ユニバーサルデザイン概論(2) デザイン基礎 I (2) デザイン基礎 II (2)	総合デザイン I (3) 総合デザイン II (3)			
				選択必修科目 (2)			卒業研究(2) 卒業制作(2) (上記2科目のうち、1科目2単位修得)	
			選択科目 (53)	ユニバーサルデザイン各論(2) 人間工学(2) 調査・分析法(2) CAD 演習 I (2) 建築歴史意匠 A (2) プロダクトデザイン基礎(2) 発達と障害(2) 生活支援デザイン概論(2) 材料・素材一般(2) 建築生産(2)	コミュニケーション技術論(2) マーケティング(2) CAD 演習 II (2) 住民参加(2) 住居計画(2) 建築・都市法規(2) 建築歴史意匠 B (2) 生活空間計画(2) コンピュータ・グラフィックス(2) 産業とプロダクトデザイン(2) 生活支援機器デザイン概論(2) 構造力学(2) 都市の計画・デザイン(2) 道具の歴史(2) デザイン工学基礎(2) デザイン工学応用(2) 環境計画(2)	学科共通科目		
				環境デザインコース系科目			表現演習(2) ランドスケープデザイン(2) まちづくり計画(2) 安全工学(2)	
				生活支援デザインコース系科目			インターンシップ C (2)	
プロダクトデザインコース系科目				インターンシップ B (2)				
環境デザインコース系科目				建築空間構成論(2) 設備計画(2) 構法計画(2) 構法計画演習(1)				
生活支援デザインコース系科目				医療福祉建築計画(2) 建築設計論(2) 材料力学(2)				
プロダクトデザインコース系科目			生活支援機器デザイン各論(2) 生活支援ロボット工学(2)					
プロダクトデザインコース系科目			リハビリテーション工学(2) 情報支援デザイン(2)					
プロダクトデザインコース系科目			情報デザイン I (2) 情報デザイン II (2) グラフィックデザイン論(2)					
環境デザインコース(7)			必修科目 (7)	環境デザイン演習 I A (3) 環境デザイン演習 I B (3)	環境デザイン演習 II A (2) 環境デザイン演習 II B (2)			
生活支援デザインコース(7)			必修科目 (7)	生活支援デザイン演習 I A (3) 生活支援デザイン演習 I B (3)	生活支援デザイン演習 II A (2) 生活支援デザイン演習 II B (2)			
プロダクトデザインコース(7)			必修科目 (7)	プロダクトデザイン演習 I A (3) プロダクトデザイン演習 I B (3)	プロダクトデザイン演習 II A (2) プロダクトデザイン演習 II B (2)			
教職科目 (卒業単位外)				職業指導 I (2) 職業指導 II (2)				

2. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。

授業科目区分		最低修得単位数	
一般教養的科目	人間探究分野	読解と表現	12
		人間と生活の理解	
		社会と自然の理解	
		経営と管理の知識	
		総合	
	文化間コミュニケーション分野	4	
	スポーツ健康分野		
	留学支援科目		
小計		16	
専門科目	学部共通科目	必修科目	8
		選択科目	
	学科専門科目	必修科目	14
		選択必修科目	2
		選択科目	53
	小計		77
中計		93	
上記をすべて含んで、124単位以上修得			

3. 学科専門科目の履修方法

(1) 必修科目

14単位すべてを修得しなければなりません。

(2) 選択必修科目・選択科目

- ① 選択必修科目として、4年次8セメスタに「卒業研究」と「卒業制作」のどちらか2単位を履修しなければなりません（両方を修得することはできません）。履修方法については、3年次に別途掲示します。
- ② 選択科目は53単位以上を修得しなければなりません。1・2年次は、学科で共通に開講しています。
- ③ 3・4年次の選択科目は、所属するコースの科目について7単位以上を修得しなければなりません。他コースの科目は、演習を除き、「学科専門科目」の「選択科目」として履修することができます。
- ④ 4年次の選択必修科目・コース必修科目は、次頁の条件を満たしていないと、履修することができません。従って条件を満たせなかった段階で、卒業も延期になりますので注意してください。

対象科目	時期	条件
・「環境デザイン演習ⅡA」 ・「生活支援デザイン演習ⅡA」 ・「プロダクトデザイン演習ⅡA」	3年6セメスタ 終了時まで	下記1)と2)の両方の条件を満たすこと。 1) 1・2年次の必修科目で「ライフデザイン学入門」「生涯発達論」「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」「人間環境デザイン学概論」「ユニバーサルデザイン概論」「デザイン基礎Ⅰ」「デザイン基礎Ⅱ」「総合デザインⅠ」「総合デザインⅡ」の10科目をすべて修得していること。 2) 卒業要件の科目を100単位以上修得していること。
・「環境デザイン演習ⅡB」	4年7セメスタ 終了時まで	「環境デザイン演習ⅡA」を修得していること。
・「生活支援デザイン演習ⅡB」		「生活支援デザイン演習ⅡA」を修得していること。
・「プロダクトデザイン演習ⅡB」		「プロダクトデザイン演習ⅡA」を修得していること。
・「卒業研究」 ・「卒業制作」		「環境デザイン演習ⅡA」「生活支援デザイン演習ⅡA」「プロダクトデザイン演習ⅡA」のいずれかを修得していること。

4. 3・4年次コース分けと各コースの特徴について

人間環境デザイン学科では、より高度な知識・技術の修得を目指した専門教育・職業人養成を行うために、3・4年次は「環境デザインコース」「生活支援デザインコース」「プロダクトデザインコース」の3つのコースに分かれて教育を行います。コース分けは本人希望を原則としますが、各コースの定数を超える場合は成績を加味してコース分けを行います。各コースの定数及びコース分けのガイダンスについては2年次の秋学期を予定しています。

各コースの内容は下記のとおりです。

(1)環境デザインコース

誰もが安心して暮らせる住宅、持続性と魅力ある建築物、都市計画やまちづくりなどのハードとソフトの計画とデザインを学びます。

(2)生活支援デザインコース

利用者個々のニーズに適合する福祉用具、移動・介護支援機器などのデザインや道具と環境の効果的適合方法、福祉施設環境の計画・デザイン、及び視覚、聴覚情報支援システムなどを学びます。

(3)プロダクトデザインコース

誰もが使いやすい製品、道具や家具及び情報インターフェースなどの開発技術とデザイン手法を学びます。

5. 学部共通科目の履修方法

(1)必修科目

- ① 8単位すべてを修得しなければなりません。
- ② 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」はあらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(2)選択科目

単位数の指定は特にありません。以下の他学科の開放科目の中で、各自の履修計画や興味に沿って履修してください。

〈生活支援学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
社会福祉の基礎(2) 社会福祉援助技術論Ⅰ(2) 児童福祉論Ⅰ(2)	社会調査の基礎(2) 社会福祉援助技術論Ⅱ(2)		
	高齢者福祉論(2) 障害者福祉論(2)	社会保障論Ⅰ(2) 社会保障論Ⅱ(2)	
児童福祉論Ⅱ(2)			

〈健康スポーツ学科開放科目〉

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
解剖学Ⅰ(2) 解剖学Ⅱ(2)	運動生理学Ⅰ(2) 運動生理学Ⅱ(2)		
	スポーツ社会学(2) 発育・発達・加齢論(2) 高齢者健康スポーツ論(2) 障害者スポーツ論(2)		
健康スポーツ産業論(2) 医学一般(2)			
	リハビリテーション論(2)		

6. 一般教養的科目

(1)人間探究分野

12単位以上を修得しなければなりません。

(2)文化間コミュニケーション分野

1年次に「専門基礎英語Ⅰ」「専門基礎英語Ⅱ」を、2年次に「専門応用英語Ⅰ」「専門応用英語Ⅱ」を修得しなければなりません。クラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(3)スポーツ健康分野

①単位数の指定は特にありません。

②授業の適切な運営のため、履修登録の際に、人数調整をする場合があります。

I・II・III及びA・Bの順を追って履修する必要はありません。

7. その他の科目

(1)他学科の科目で、「5. 学部共通科目の履修方法」の「(2)選択科目」に記載されていない科目については、原則として、履修することも単位を修得することもできません。

(2)教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」「教科に関する科目」で、自分の所属する学科の教育課程表にない科目は、教職の専門科目となります。単位修得しても、卒業単位として計算することはできませんが、1セメスタの履修登録の上限24単位外の科目として履修登録することができます。

8. 履修モデル及び就職先

人間環境
デザイン

卒業後の進路・資格

1・2級建築士 建築家 まちづくりコンサルタント インテリアデザイナー 設計事務所 住宅メーカー 建設会社 研究 教育 行政 など	福祉用具デザイナー 福祉住環境コーディネーター 医療機器デザイナー メーカー(医療・福祉・住宅機器など) 研究 教育 行政 2級建築士 など	プロダクトデザイナー ヒューマンインターフェースデザイナー / Webデザイナー デザイン事務所 メーカー(家電・家具・自動車・ 玩具・医療機器・精密機器など) 教育 行政 2級建築士など
--	---	---

4年次	環境デザイン演習Ⅱ A/B 卒業制作・研究	生活支援デザイン演習Ⅱ A/B 卒業制作・研究	プロダクトデザイン演習Ⅱ A/B 卒業制作・研究
	環境デザイン演習Ⅰ A/B 構造力学	生活支援デザイン演習Ⅰ A/B	プロダクトデザイン演習Ⅰ A/B

3年次／4年次の選択科目		
建築空間構成論 構法計画 建築設計論 構法計画演習 設備計画 材料力学 医療福祉建築計画 ランドスケープデザイン	情報支援デザイン 生活支援ロボット工学 生活支援機器デザイン各論 リハビリテーション工学	情報デザインⅠ／Ⅱ プロダクトデザインⅠ／Ⅱ グラフィックデザイン論

■環境デザインコース

■生活支援デザインコース

■プロダクトデザインコース

3年次／4年次の選択科目
まちづくり計画 情報メディアデザイン 認知科学 ユニバーサルデザイン特別講義 福祉住環境コーディネート論 ヒューマンインターフェース 安全工学 表現演習

2年次
総合デザインⅠ／Ⅱ
都市の計画・デザイン 建築歴史意匠B 生活空間計画 建築・都市法規 住居計画 CAD 演習Ⅱ 産業とプロダクトデザイン コンピュータ・グラフィックス 住民参加 マーケティング コミュニケーション技術論 道具の歴史

1年次
人間環境デザイン学概論 デザイン基礎Ⅰ／Ⅱ ユニバーサルデザイン概論 情報リテラシーⅠ／Ⅱ ライフデザイン学入門 生涯発達論
建築歴史意匠A プロダクトデザイン基礎 CAD 演習Ⅰ ユニバーサルデザイン各論 人間工学 調査・分析法 生活支援デザイン概論